

海外安全対策情報 2021 年第 3 四半期（7～9 月）

在ブルガリア日本国大使館

1 社会・治安情勢及び一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（1）社会情勢

ア 政治情勢

4 月に行われた総選挙後の組閣不成立との結果を受け、7 月に解散総選挙が実施されましたが、政治勢力間の連立交渉は再び不調に終わり、11 月 14 日に今年 3 回目の総選挙（2 度目の解散総選挙）が実施されることになりました。なお、11 月 14 日には大統領選挙も同時実施される予定です。9 月末時点では、この状況に伴う治安への大きな影響は見られません。

イ 新型コロナウイルス情勢

8 月以降、ブルガリア国内は、第 4 波と言われる感染拡大期に入り、9 月 2 日、保健省は、飲食店の深夜営業制限や各種施設の利用人数制限等を含む各種感染拡大予防措置を強化する保健大臣令を発出しました。この規制に反対する関係者によるデモが何度か行われましたが、9 月末時点では、治安への大きな影響は見られません。

なお、8 月 2 日、ソフィア市内の路線バスに乗車した女性客が、同バスの乗客の半数以上が着用義務のあるマスクを着用していないと運転手に申し立てたところ、同女性客が降車する際、男性客から後部を殴られ、地面に転倒したという傷害事件が発生しました。

（2）治安情勢

ア 犯罪統計

ブルガリアの犯罪発生件数は近年減少傾向にあり、2020 年の犯罪総数は前年比マイナス 22.1%で、2011 年の約 54%にまで減少しました。しかし、その一方で、日本と比較すると依然として犯罪発生率は高く、人口 10 万人当たりの発生件数では、犯罪総数は日本の約 2 倍、殺人は約 4.7 倍、強盗は約 12.9 倍となっています。

イ 不法移民統計

内務省の発表によると、2021 年上半年期（1～6 月）のブルガリア国内における不法移民検挙件数は 2,278 件で、前年同期比 5.3 倍と大幅に増加しています。

（3）邦人被害犯罪の発生状況

この期間中、邦人が被害に遭った事件は認知していません。

2 テロ・爆弾事件発生状況

この期間中、テロ・爆弾事件は発生していませんが、9月14日、ソフィア市内において、薬物犯罪捜査の過程で、警察が、薬物関係者の倉庫から、拳銃、サブマシンガン、ライフル、銃弾、手榴弾、TNT、その他の爆発物を発見、押収したという事件が発生しています。

3 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人が被害に遭った事件は認知していません。

4 日本企業の安全に関する諸問題

ブルガリア国内における対日感情は基本的には良好で、日本人に対する差別行為はこれまであまり見られません。新型コロナウイルスは中国から持ち込まれたという思いや、長引くコロナ禍を背景としたストレスや不満の蓄積により、今後、中国人と日本人との混同も含め、アジア人全体に対する差別が顕在化してくるおそれがありますので、十分ご注意ください。